説　教　　第三アドベント聖日礼拝　　北浜チャーチ

黒田　禎一郎

２０２１年１２月１２日(日)

主　　題：「まことの光が来た」

―Joyful Message―

テキスト：ヨハネの福音書１章９－13 節

はじめに

・本日、第三アドベント聖日を迎えました。時の流れは実に早いものですね。私たちはアドベント・リースのキャンドルに、毎週一本づつ点火してきました。今日はその３本目です。第三番目のロウソクは「光」（ともしび）を象徴します。その光とは、暗やみに勝つ「まことの光」です。ヨハネ１・５「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」

・昨今では、クリスマスの光が街中にあふれています。美しいイルミネーションは、競って美を演出しています。私たちは美しい光を見て、大きな感動を覚えるものです。しかし、その美しい光も、クリスマスが終われば消えてしまいます。聖書が語る光とは、そういう有限的なものではありません。

ヨハネ１章､9 節 10 節

1:9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。

1:10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

・聖書が語る光とは、初めから存在し、現在も存在し、そしてこれからも存在する「まことの光」のことです。今日、第３アドベント聖日を迎えています。私たちはその「まことの光」について考えたいと思います。

大切なポイント

１．世界が追いかける光

・ 先日，こんな話しを聞きました。ある日本人が、かつてにタイ国に住んでいました。その時、山々に囲まれた地域へ行くと、まだ電気がない村がめずらしくありませんでした。村では、家にある１つの小さなともしびの下で、家族そろって早めの夕食を食べていました。それから翌日の生活に備え､静か眠りにつくのが日常生活でした｡電気製品がないので，小さな灯（あかり）だけが頼りでした。

・ それから彼は、再びタイ国を訪問しました。すると現在のタイ国は違っ

ていました。タイの山奥の村々にまで電気が通じるようになりました。電気が生活に入ってくると、人々の生活は一変しました。長い電柱を搬入するため、まず道路が整備されました。家には蛍光灯がつき、テレビが入ってきました。しかもパラボラ・アンテナで、衛星放送が受信でき、ＤＶＤも見られるテレビが入って来ました。世界中の出来事を毎日試聴もできるとともに、耐久消費財（電気製品、家具、乗用車等）の豊かな暮らしを描く宣伝も、目に飛び込んできました。

・ 道路は良くなり、街へも行きやすくなりました。体力がある大人は、現金収入を求めて出稼ぎに出るようになりました。親は経済的に無理してでも、子どもたちによりよい就職につかせるため、町の学校へ通わせるようになりました。多くの人々が仕事を求め、街へ街へと出て行きました。村には高齢者と幼児だけが残り，しだいに過疎化していきました。それまでの地域共同体は崩れ，村は一気に廃れていきました。

・ 皆さん！　すべては豊かな暮らしのためでした。つまり輝く耐久消費財に囲まれた生活を手にするためでした。この流れは今や１国だけでなく、世界各地で起こっている現象です。これが今の時代です。
・ 私たちは次々に伝わってくる新情報に接しながら，生活の根本的なことはあまり変わっていないのではないでしょうか。人は「少しでも豊かになりたい！」、「どうしたら豊かになれるのか？」、と思案しています。
・ 豊かさを求めて、平和を願う気持ちとは正反対のように、暗い現実が存在しています。ニュースは今や一瞬にして、世界中をかけめぐる時代です。恐ろしい犯罪や、信じられないような事件、地域戦争、そしてテロ事件が続いています。
・そのような社会で、不満，不安，対立、緊張、憎悪、苦しみが充満しています。人は少しでも、豊かな暮らしを手に入れようと願っています。さらに豊かな暮らしを得るため、手段を選ばない不正や悪が横行しています。たいへん危険な社会、時代となりました。
・人類はこれまで、光を求め，恩恵を得ようと、終わりのない争奪戦を繰り返してきました。それが世界が追いかけてきた光です。では、「まことの光」は、どこにあるのでしょうか？　聖書はこれに対して回答を与えています。

２．天来の「まことの光」が来られた

・「まことの光」とは、人間が作り上げた光ではありません。それは天らから

来られた『まことの光』です。　ヨハネ福音書：

1:9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。

1:10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

・イエス・キリストは「まことの光」です

約２千年前、イエス・キリストは家畜小屋に生まれました。その誕生は、吹けば消えそうな「小さなともしび」のような光でした。その「光」を消そうとした人々が現れました。聖書はその姿を克明に証言しています。

・その後イエスは成長し、約３年間の公生涯でメシアとしてのわざを現されました。しかし彼は憎しみを受け、捕えられ、十字架にかけられ、殺されました。そして旧約聖書預言のように、三日目に復活されました。死を打ち破る勝利の光を放たれました。

・その「小さなともしび」が放つ光こそ、暗やみの社会にいる人々を照らす光です。まさしくイエスこそ、世の光です。

では、イエス・キリストとはどんなお方でしょうか。

１）「このお方」は創造神である

1:10 このお方はもとから世におられ、世はこの方によって造られた

・「世」とはギリシャ語で「コスモス」、本来「秩序ある世界」を意味するが、ここでは罪に汚れた世界と人々を指して用いられている。この世は現在、無秩序と混乱が支配している。私たちは、この社会で生き働いている。

２）「このお方」は光の源です

・ギリシャ語には、光という単語は２種類あります。

“phos”（フォス）：光の源、発光源

ヨハネ福音書

8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

“phengos”（フェンゴス）・単なる光、ともしび

ルカ福音書

11:33 だれも、あかりをつけてから、それを穴倉や、枡の下に置く者はいません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるためです。

イエスが『わたしは世の光です』と言われたのは、phos(フォス)すな

わち、ご自身が発光源であると言われたのです。

3）「このお方」は来世された神

1:10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

1:11 この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。

・「自分のくにに来られた」　⇒ご自分が所有するくにである。すなわち神が人となって、この暗い世に、誰にも分かるように「まことの光」として来られた。⇒クリスマス

・ここに神の人類救済マスタープランがあります。

ところが、「世はこの方を知らなかった」。メシアは来られたが、混迷社会と無秩序の中で、罪に汚れた人々は知らなかった。見たけれど、見ていなかった。見てはいるが、肝心なことは見ていないという愚かさです。人間には、そのような愚かさです。２千年前のイスラエルの民は、「この方を知らなかった」と記されています。今の時代も、同じようです。人々はイエス・キリストを知りません。

・なぜか？　⇒　それは彼らの顔（目）には、罪という顔覆いがかかっていただからです。そして「ご自分の民（イスラエル）は、受け入れなかった」でした。

・少し整理してみましょう。「世界」（コスモス）は、①天地創造の神によって造られた。②　神は暗い「世」に、メシア（救い主）を送られた。③しかし、ご自分の民は受け入れなかった。

・皆さん。このような現実に、神の大いなるマスタープランがあります。歴史の特定な時点に、特定の民族の一人として、神はメシア（救い主）を送られた。つまり神は人類救済の計画と目的のために、イスラエル民族を選ばれたのでした。他のどの民族よりも多く、彼らにメシアを啓示されました。そして救いの約束を与えられました。旧約聖書時代は、そのための準備期間でした。

・「まことの光」⇒そのお方は、天から来られたイエス･キリストです

＊それは神の人類救済の愛の表れです。これが世に来られた「まことの光」です。

4）神　の　祝　福

・神のマスタープランは、結論として、「まことの光」を通し祝福を与える

ことです。では、どんな祝福でしょうか？　それは次の祝福です。

⇒　神の子とされる特権

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

「その名を信じた」とは、「全幅の信頼を寄せた」という意味です。

・神の子とされる特権、それは人間には不可能なことです。
皆さん。子の特権のひとつは、⇒相続です。
子は子であるという立場（特権）から、何も努力せずに相続の権利があります。

・同じように、神の子にも天の御国を相続する権利が与えらます。

聖　書：

「なぜなら、世界を相続させるとの約束が、アブラハムとその子孫とに対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるからである。
ローマ4:13

「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。」　ガラテヤ3:29

・神への全幅の信頼を寄せた人、すなわち信じた人は、神から子とされる特権が与えられます。
皆さん。　なんという幸いではありませんか！

・では、子とされる方法はどのようでしょうか？

1:13 「この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもない。

「血によって」（複数形）⇒これは血筋（血統）を示す
「肉の欲求」　⇒人間的努力、修行、鍛錬などを示す
「人の意欲」　⇒親の意志、あるいは配偶者や両親の意志、

・次に特権の出所はどこにあるのでしょうか？

「この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」1:13

・ただ「神によって生まれる」　⇒ヨハネ福音書３章を開くと、神はユダヤ神学の教師だったニコデモに次のように言われた。　ヨハネ福音書

3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

・「新しい誕生」（救い）は、全く神の力によるもので、少しも人間的

動因にはよるものではありません。

・神の子となる特権は、血統でなく、修行、鍛錬でなく、あるいは他人の意欲によるものでもありません。⇒　ただ「神によって生まれる」のです。暗い世の中でもまことの光」によって、新しくされる道が開かれました。⇒１００％、神の恵みです。キリスト・イエスを信じるだけで与えられる、神の恵みです。

・ところで私たちは、光をどこに置いているでしょうか？
灯りは見えるために、燭台の上に置くものです。
だれも、あかりをつけてから、それを穴倉や、枡の下に置く者はいません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるためです。　ルカ 11:33

・私たちの生活で、キリストの光はどこに置かれているでしょうか
「だから、あなたの内なる光が暗くならないように注意しなさい。」
ルカ 11:35 口語訳
「暗やみにならないように、気をつけなさい」
ルカ 11:35 新改訳

・今年のクリスマス、私たちは「光」を発見する機会です。

ま　と　め

主　　題：「まことの光が来た」
—Joyful Message—

すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。
ヨハネ 1:9

・私たちの人生、争奪戦に明け暮れ、疲れ果てはいないでしょうか？
私たちは「まことの光」である「クリスマスの灯火」に癒される必要があります。

・今日のテーマ：「まことの光が来た」　光　⇒イエス・キリスト
1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

私たちに与えられた特権は、
１．イエス・キリストによって神の子とされる
２御国の相続人とされる

＊１００％神の恵みです。

God bless you!